

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.20 September 2009

平成21年度 第4回研究会を開催 9月26日(土)

今年度の研究会は、「企業側から、独自のものづくりを展開されている個性豊かな経営者からの講演、および大学側から、社会の課題実現につなぐ先行的な研究について研究員からの講演」の企画により開催します。会員、研究員、大学院生等、36名の出席でした。

1. 「画像計測とは、撮ることと見つけたり」

関西大学システム理工学部 准教授 倉田 純一 氏

ロボットの目や不良品の検出など産業界の多くの分野で画像計測は用いられているが、何が一番注意して画像計測を行ったら良いであろうか。撮りやすい画像を撮ったあとで、多大な時間をかけて様々な処理を施し、使えるデータとしていることが多いのではないだろうか。

倉田先生は、『何を計測結果として得たいのか』をもとに、もっと、『撮りたい画像』や『撮らねばならない画像』を撮ることに努力をし、そのあとの処理を少なくすることで、研究や開発の効率を上げることが必要ではないかと、ロボットに色識別機能を持たせる研究などを例に取り、熱く語られました。



倉田准教授

2. 「シェア世界一の小さな企業の経営戦略、新製品開発」

株式会社 ユタカ 代表取締役 安田 憲司 氏

(株)ユタカは、従業員14名という規模の小さな会社ではあるが、極小の球状ハンダの形状やねじ山形状などの微細形状の全数検査装置などを世界に先駆けて開発・製品化している優れた会社である。

社長である安田氏は、経営の秘密を『設計・開発に重点を置き、加工は外注に出し、組み立ては自社でやる。営業社員も2名入れたが、営業は海外も含めて商社に任せている』と少ない従業員で効率よくやることであると明かしてくれました。

海外のセミナーや展示会に従業員を派遣するなど、国内だけではなく海外市場にも注目する必要があることを、身をもって示していることが良く分かる講演でした。



安田氏

お知らせ

化学生命工学部 荒川隆一教授が2009年度
日本分析化学会 学会賞を受賞されました。

日本分析化学会学会賞は、日本分析化学会正会員のなかで、分析化学に関する貴重な研究をし、その業績を同会論文誌及びその他の論文誌に発表した研究者の中から、特に優秀な研究者に贈呈されるものです。

このたび、化学生命工学部 荒川隆一教授は、「溶存化学種分析のためのソフトイオン化質量分析法の開発」の業績に対して同賞を受賞されました。

この研究は、質量分析の単なる応用ではなく、質量分析計のイオン源に独創的な改良を加え、錯体化学や超分子化学をはじめとする溶液分析化学や各種の応用分野へ展開し、これまで測定が不可能であった化学種の分析を可能としたことが国内外で高く評価されています。



振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>
関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University